

ベルーフニュース vol.46

発行日：2024年2月13日

▶IT 専門職希望でなくてもベルーフで就労できるのか

ベルーフとネットワーク提携しているクリニック、大学、企業、そして各種支援機関に「ベルーフは IT 専門職への就労を支援する事業所である」との認識が広まり、創業10年を目前に、「障害者が①就労を目指し、②必要な職業教育を受け、③妥協なく就労し、④継続する」、の4つのステップをスムーズに支援する、ドイツをお手本としたワンストップサービスが実現しつつあります。

その一方でベルーフの利用対象者は「プログラマ志望」、「理系出身」、「リモートでの働き方を希望」といった像が描かれやすいのか、明確な IT 職の希望や、学習のバックグラウンドを持たない人には紹介しにくい現状があるようです。

確かにベルーフで提供しているカリキュラムは、プログラミングや統計学等、専門知識・専門技術を習得するものですので、そういった方面に進みたい人には最適です。

しかし、今やITはどの職についても使いますし、巷のサービスはプログラミングにより動いているものが大半、世の中に流れるニュースや情報は、データマイニングされたものばかりです。たとえITを職業にしなくても、基礎的な知識を体系立てて学ぶことは、業務能力の基礎として役立ちます。

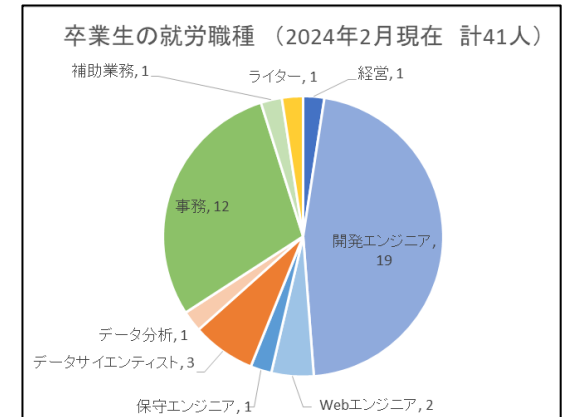
また就労のためには、プログラミング等の技術だけでなく、業務をきちんと把握し遂行できる習慣や、会社の一員として責任を果たすコミュニケーションが必須です。これらを理論と反復練習によって身につけるのが、ビジネス系研修です。ベルーフのビジネスパーソン研修は、企業で働くための判断基準を学び、それを習慣づける研修です。例えば、「遅刻をしない」というテーマでは、「組織において規律を守ることの重要性」に気付かせます。人間は、自分が理解し納得したことは忘れません。こうして判断基準を自ら変え、行動を変えて、企業で働く準備をして行くのです。

卒業生の中には、「興味があってプログラミングを学んでみたが、違うかな」と感じ、自分の能力を発揮できる業務をベルーフと一緒に考え、最終的に Web やチラシをデザ

インする仕事に就いた人や、「コードを書くのは文法を覚えるのが大変で苦手だが、プログラムの発想は好き」という人が、ローコード開発の仕事に就いた例もあります。

ベルーフの規定する「働く」とは、「世の中への役立ちを自ら創る」ことです。障害の有無・程度に関係なく、自らの能力を鍛錬し、磨き上げ、役立ちを世に提供する企業の中で存分に発揮し、その対価を得ることで、社会の一員として自立して生活していくことを目指します。

例えば右のグラフで「開発エンジニア」は最多の19人ですが、お客様先で商品を開発している人も居れば、社内の総務部門でオーダーメイドの小さなツール開発をしている人も居り、規模も納期も役割も多種多様です。ベルーフで培った本人の強みを発揮できる業務と職域を、企業と共につくり



あげ、実習で双方丁寧に確認することで、長期的な安定就労に結びつけています。一人一人の強みを見出し磨き上げるのが、プログラミングを始めとした各種専門研修なのであり、また研修で学んだ技術がその後の本人の就労を支えています。

自分にどんな才能があるのか、どう磨き上げて世の中に役立てるのか、それを利用者や支援者と一緒に考え、その道を共に創るのがベルーフの就労支援の基本的な考え方で、「この人はどうか」という方がいらっしゃれば、お気軽に相談ください。それこそが、ベルーフが目指すワンストップサービスそのものです。

就労移行支援事業所ベルーフ

東京都指定障害福祉サービス事業所 1310500739

〒112-0002 東京都文京区小石川5-4-1 瑞穂ビル9階

TEL 03-5803-2424 E-mail info@beruf.jp

Web <https://beruf.jp/> Twitter @tw_beruf11